

○10番（田山文雄君） 皆さん、おはようございます。議席番号10番、田山文雄でございます。議長より発言の許可をいただきましたので、通告に従って4項目、4点についての一般質問をさせていただきます。執行部の誠意ある答弁をよろしくお願いいたします。

初めに、9月と10月に発生いたしました台風15号、19号により、各地で甚大な被害を受けました。亡くなられた方々へのご冥福と被災された方々に心からのお見舞いを申し上げます。また、傍聴者におかれましては、12月のお忙しい中、議会の傍聴にお越しいたごき、大変にありがとうございます。

それでは質問をさせていただきます。1項目めのSDGsについてお伺いをいたします。ことしの3月定例会においても、SDGsの取り組みについての質問をいたしました。ことし4月16日に私ども公明党の岡本衆議院議員をゲストスピーカーとして、内閣府と外務省の職員を講師として、町主催の勉強会が開催をされました。大変に感謝を申し上げるところであります。さらに幅広く町民の皆様にご知っていただく取り組みをしていくべきと感じています。おさらいになりますが、このSDGsとは、人類及び地球の持続可能な開発のために達成すべき課題とその具体目標の略称であります。ちなみに、このバッジがそのバッジとなります。2000年に同じく国連で採択されたMDGsで達成できなかった目標を含め、向こう15年間の2030年までに実行、達成すべき事項を整理し、2015年9月の国連持続可能な開発サミットで採択され、国連加盟193カ国が2016年から2030年の15年間で達成する行動計画のことを言います。2030年に向けた17の大きな目標と達成するための具体的な169のターゲット、232の指標で構成をされています。この17の目標は、1つは貧困をなくそう、飢餓をゼロに、3つ目に全ての人に健康と福祉を、4つ目に質の高い教育をみんなになどからなっております。こうした項目を見ますと、今境町が取り組んでいる項目も非常に当てはまるなというふうにご実感をしております。また、これが17のパートナーシップで目標を達成しようまでの多岐にわたっています。特にゴール11の住み続けられるまちづくりをという項目は、自治行政と最も関連の強いゴールと捉えることができ、自治体行政の参画を抜きにしてこのゴール11の達成は不可能と言えます。しかしながら、自治体の役割と責務はゴール11だけでなく、ほかの16のゴールの内容にも深くかかわっています。特徴は、誰一人取り残さない社会の実現を目指して、経済、社会、環境をめぐる広範な課題に全ての関係者、政府、民間企業、NGO、有識者等の総合的取り組みを重視していることとあります。SDGsは、その基本理念に誰も置き去りにしないという約束を掲げています。私たち一人一人にも課題解決のためにできることは数多くあります。2030年の世界を暮らしやすく、人々が大切にされる世界にするために、このSDGsについて理解を深め、身近な社会課題に関心を持つことが目標達成の一步となります。現在までのこの当町の取り組みについて、またお伺いをいたします。

次に、2項目めの防災対策についてお伺いをいたします。町長の先進的な取り組みや英断によって、全国から境町に視察研修に訪れる自治体も多いと聞いています。先月も都議会公明党としても当町に視察に訪れるなど、防災においても模範となる自治体として注目をされ

ています。全国的に甚大な被害をもたらした台風19号においても、後日、数多くのテレビ等で町長のインタビューを交え、放映されるなど、注目を浴びました。全国初となる広域避難やバスを使つての避難など、また深夜に町長みずからの声で避難を呼びかけたことなどによって、町民の皆様の防災意識も高まることができたと感じています。その一方で、避難所に行くのに大変だったとか、入れなかった等の声もあります。今回のことで見えた課題や問題点、そして当町としての今後の取り組みについてお伺いをいたします。

次に、3項目めの英語教育についてお伺いをいたします。境小学校においては、モデル事業としてスタートしてから約2年半、ほかの小中学校においては、スーパーグローバルスクール事業として約1年半が経過をしました。高いスキルを持った17名のフィリピン人英語講師による、ほかの自治体にはもう類のない英語教育として町が取り組んでいます。小学生が町を英語で紹介する映像などが町のホームページ等から見ることはできますが、もうただただ子供たちの語学力の進歩に驚くばかりであります。議会全員協議会においても町長から説明はありましたが、来年度からフィリピン人英語講師を増員し、さらに充実した体制にしていくと伺いました。さらなるスキルアップしていく子供たちが楽しみにもなります。当町の取り組みをお伺いいたします。

4項目めの骨髄バンクドナー登録推進についてお伺いをいたします。白血病や悪性リンパ腫、骨髄腫などのいわゆる血液のがんは、以前はなかなか治りにくいと言われており、その複雑さやイメージから、もう助からないのではないかと思ってしまうかもしれません。しかし、現在は医療の技術も進歩したので、血液のがんになったとしても助かる割合が多くなってきています。治療法は、抗がん剤を使った化学療法、放射線療法、造血幹細胞移植療法が主なるものですが、病気の種類や患者の症状、年齢、体格、社会的要因などにより、まさに十人十色の治療法が選択されます。その中で、血液のがんを患った人の中には、選択肢の中で移植しかないという方もたくさんおられます。文字どおり移植でありますから、健康な造血幹細胞を提供してくださる方、ドナーがいて初めて成り立つ治療であり、その取りまとめや患者とのコーディネートをしているのが日本骨髄バンク並びにさい帯血バンクであります。骨髄バンクドナーは、登録希望者から2ccの血液検体を採取し、必要な情報のみ登録するところでもあります。骨髄バンクでは、ドナーの登録者の確保が大きな課題となっております。登録できる年齢が決まっており、18歳から54歳まで、55歳になり次第登録から外れていきます。実際の骨髄採取は20歳以降になります。ことし2019年9月末現在のこのドナー登録者数は、全国で約52万人、骨髄移植を行っている他国と比較しますと、ドナー登録自体が少ない現状であります。がん全体に言えることではありますが、罹患率が年齢的に50代で増加に転じ、60代から急増するそうであります。骨髄移植のドナー登録は54歳までですので、少子高齢化により需要と供給のバランスは厳しさの一途をたどり、移植を必要とする患者はふえ、ドナー登録者は減ることになります。まずは、啓発普及や支援等が重要となると思いますが、当町の取り組みについてお伺いをいたします。

以上、4項目、4点についての1回目の質問を終わります。

○議長（倉持 功君） ただいまの持続可能な開発のための目標（SDGs）についての質問に対する答弁を求めます。

参事兼企画経営課長。

〔参事兼企画経営課長 佐野直也君登壇〕

○参事兼企画経営課長（佐野直也君） 皆様，改めましておはようございます。それでは，田山議員の1項目め，持続可能な開発のための目標（SDGs）についての1点目，国連サミットにおいて貧困や格差をなくし，気候変動，健康増進，教育の拡充，経済成長などの課題解決に向け，2030年の達成を目指して取り組む国際的な目標がSDGsであるが，当町としての取り組みについてとのご質問にお答えをいたします。

当町では，2019年度，本年度より12年間のまちづくりの計画として策定された第6次境町総合計画の基本構想において，総合計画におけるSDGsの考え方としてまとめております。その中では，町の政策の方向性のほとんどにSDGsの17の目標が関連づけられているということから，町の施策を推進するということがSDGsの目標達成に直結することになるというふうに考えております。また総合計画では，町民，企業，各種団体など，町にかかわる全ての個人や組織が連携するために，積極的な情報発信や普及活動を図っていくこととしております。こうした考えのもと現在町では，SDGsの関連施策の実施，情報発信や普及活動に取り組んでいるところでございます。

具体的な取り組みとしましては，まずことし3月に内閣府が公募したSDGs未来都市及び自治体SDGsモデル事業への提案でございます。提案内容は，誰もが明るい未来を描きながら暮らすことができるまちさかいを目指し，公立日本語学校の創立や外国人の雇用創出により，多様な価値観を持ち，誰もが未来に希望を描いて暮らせる社会基盤を構築する多文化共生のまち，SDGs未来都市さかい創生事業として提案をいたしたところでございます。結果としては選定されませんでしたでしたが，次年度以降につきましても積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

また，4月15日には町内関係者との共通理解を図るとともに，SDGsの取り組みのきっかけとするため元外務大臣政務官で公明党の岡本三成衆議院議員，元財務副大臣で株式会社グローバルビジネス戦略総合研究所の遠藤乙彦代表取締役，内閣府地方創生推進事務局の遠藤健太郎参事官，外務省国際協力局の甲木浩太郎課長を講師にお迎えしまして，「SDGsを学ぼう～境町から世界を変える～」と題し，勉強会を開催いたしました。当日は，議員の皆様を初め，町内各種団体や町職員など合計172名が参加され，SDGsについて理解をしていただく第一歩となったものと考えております。講師を快くお引き受けいただきました岡本先生，遠藤先生，遠藤参事官，甲木課長，勉強会の開催に際し，多大なるご尽力いただきました田山議員さん，そしてご参加いただきました議員各位，また各種団体等の皆様方にこの場をおかりしまして，改めて感謝と御礼を申し上げます。

その後，6月には国及びSDGsに積極的な自治体，企業などとの連携や情報交換を密にできるよう内閣府が主導する地方創生SDGs官民連携プラットフォームへ加盟するとと

もに、8月26日には東京で開催されました令和元年度地方創生SDGs官民連携プラットフォーム総会に関係職員が参加し、片山さつき前地方創生担当大臣によるSDGsの推進に向けた国の動向についての説明や、識者による講演を聴講してきたところでございます。さらに、9月には内閣府が主催する全国の中高生を対象としたSDGsの考え方をを用いて、自分の住んでいる町や自分が関心のある町を誇りを持って住み続けたい町にするためのアイデアを募集し、賞を選考するSDGsまちづくりアイデアコンテストに一般公募された県立境高等学校の生徒が応募いたしました。全国から186件の応募があったこのコンテストですが、当町では戦略会議委員の松野豊参与監修のもと、参加した高校生による橋本町長や倉持議長、野口観光協会長へのヒアリングを初め、ワークショップ等を3日間にわたり実施し、4つのアイデアを提案いただきました。具体的には1つ目としまして、子供の交通事故問題やゲリラ豪雨で安全に登校できない問題に対応するため、バーチャルリアリティーゴーグルを装着して、バーチャルの世界で学校の授業を行うシステムをつくるVR登校という提案、2つ目としまして、町内の食品ロスを解消し、環境に配慮した町を目指すため、町内に3Dプリンターを備えた加工場を整備し、まだ食べられるにもかかわらず廃棄されてしまった食品を再び食べられるように加工しようという3Dフードサイクルという提案、3つ目としましては、24時間いつでも町内を移動できる自動運転の循環バスを導入することで、お年寄りや児童などの交通弱者をなくするという24時間町内循環自動運転バスという提案、4つ目としましては、各学校の英語力を可視化できるようにすることで、町内の中学生がお互いに競い合い、最終的に英語力全国一位を目指し、グローバルリーダーの育成を図っていくという、英語力全国1位へ、境英語ダービーという提案でありました。残念ながら賞に選べることはできませんでしたが、現在町や国が抱えている問題を的確に捉え、短期間で実現可能なすばらしい提案が出されたものと考えております。このようなすばらしい提案を取りまとめていただいた境高校の生徒の皆さんに敬意を表するとともに、松野参与を初めとする関係各位に改めて感謝と御礼を申し上げます。

そして、11月8日ですが、境町役場大会議室において一般社団法人境青年会議所研修委員会主催によるSDGsセミナーが開催され、43名が参加し、公益社団法人日本青年会議所SDGsアンバサダーの大木貴子氏による講演や、SDGsカードゲームなどを用いたグループワークが開催されました。参加者からは、SDGsは難しいことだと思っていたが、身近なことであるということがよくわかったや、SDGsの考え方をどのようにふだんの仕事や生活に取り入れていけばよいか理解できたなどの感想があったと伺っております。

このように町といたしましても、SDGsの目標達成に向け各種取り組みを進めておりますが、今後もさらに積極的に取り組んでまいりたいと考えておりますので、田山議員さんにおかれましても、ご協力のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

田山文雄君。

○10番（田山文雄君） 今回、実は3月にやって、先ほど答弁ありましたけれども、講演会

がきっかけになればいいなという形で今進めさせてもらいました。町も真剣に今取り組んでいるということがよくわかったのですが、要するに毎年アワードというのあって、ことし申し込んだという話だったのですが、多分来年もそのアワードがあると思います。そのアワードに向けての今町の提案してくようなものといえますか、それは今考えてらっしゃるのかどうか、まずお聞きしたいと思うのですが。

○議長（倉持 功君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。

町長，橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） それでは、田山議員さんのご質問にお答えします。

その応募した当時は、鎌倉市にお世話になって、鎌倉市採択になっていたものですから、さまざまな取り組みについて、どういう提案をしたらいいか、本当にSDGsの話が上がって、まだ多分1カ月とか2カ月ぐらいのときに、そういったことにチャレンジしたというのがありました。その後、内閣府のほうにどこがだめだったかとか、どういうふうにしたらいいのではないかというのを、今チームをつくらせていただいて、そちらが研究しているところなので、ぜひその後どうなったか僕も聞いていなかったものですから、今どういうふうな方向で向かっているのか、多分英語教育を中心に沿えるというのはあると思っていますし、貧困をなくすとか、やはり全ての人を救う、どういうふうにしたら持続可能な社会がつかれるかということの研究しているというふうには思っておりますので、後でその担当者グループ、係長クラスなのですけれども、彼ら、彼女たちがやっていることでありますので、ある程度方向性まつまり次第、議会の皆さんにも報告をさせていただけたらというふうには思っておりますので、次のチャレンジに向けて、今下勉強しているというのが現状のところなのかなというふうに思っておりますので、ご理解のほどよろしくお願ひしたいと思います。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

田山文雄君。

○10番（田山文雄君） 来年に向けて準備をしているということですので、ぜひ実はきのう全協で配られました地方創生のやつですか、このチラシの中にも講演会等があつて、片山さつき前地方創生担当大臣ということで、講演があるとか載っていましたがけれども、町長も本当に片山前大臣とも非常にパイプが太いといえますか、あると思いますので、どうか先ほど言ったように町が受賞されるような、何かぜひ紹介していただきたいなと思うのと、もう一つは町民の人が一人一人がこのSDGsというのは何だろうって、やっぱりもっとわかりやすくなるような、僕は機会というのをぜひ町がまた設けていただきたいなと思うのです。これはちょっと余談というか、片山さんにしても、たしか前に大臣終わる前に、呼んでいただければぜひ行きますよという話もあったと思うのです。だから、そういった人を呼んでもらって、町民の人に一人でも多くこのSDGsについて考えてもらう、自分ができることは何だろうというのを一人一人が考える機会を数多くつくっていただくことが、やはり町民の皆さんの機運が盛り上がる、そういうになるのではないかなと思いますので、この辺を要望させていただきたいと思います。答弁もしあれば、済みません。

○議長（倉持 功君） 町長，橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） それでは，田山議員さんのご質問にお答えします。

先ほどの答弁の中にもありましたけれども，今回境高校生の子供たちがいつもアイデアソンってやっているのですけれども，あれをSDGsに応募しようというって，変えて応募してもらったのです。非常にアイデア的には，どれも今の境町の課題を解決するような，そしてそんなに難しくない課題，近い将来実現できるような，そういう解決策を，ぱっと見ると自動運転とか，ぱっと見るとVRって非常に何か未来のここのように感じるかもしれないのですけれども，技術的にはもう今すぐできるような，そんな技術にもうなっているのです。非常にいいアイデアを出していただいたとっております。そういうのを例えば議会の皆さんとももっと協力しなくてはならないと思っておりますし，例えば町民全員の皆さんに，このSDGsというのはこういうことですよ，今ちょっと答弁書を読んでいて思ったのは，青年会議所がやった講演会があったのです，11月に。ああいったものをもうちょっと広く皆さんに提供させていただいて，みんなを呼べばよかったのではないかとか，そんなことも思ったのですから，来年に向けてはさまざまな部分で，いきいきクラブの皆さんとか，いろんな部分でこのSDGsというのを，難しくないものですから，やはり当たり前のことを当たり前にできるかどうかで，持続可能になるかどうかというのが決まってくるということでありますので，そういう部分をしっかりと広めていきたいなというふうに思っておりますし，もう一つ先ほどのできれば賞をとれるようにという話もありましたので，賞は狙っているのですけれども，なかなかとれないときにはしょうがないという形で，ぜひ来年度も狙ってはいきたいなというふうに思っております。

片山さつき前大臣の話でありますけれども，ちょうど，日にちはまだ決まっていないです。一応境町に今度来ることにはなっておりますので，その前段で，そのときは多分憲法改正か何かで来るかもしれないので，前段でちょっとSDGsの，そういう住民向けの何かことができるかどうか，そんなこともちょっと片山先生と相談をさせていただいて，議会の皆さんとともに，そういったこともできればなというふうには思っておりますので，よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（倉持 功君） 答弁はいいですか。

〔「はい」と言う者あり〕

○議長（倉持 功君） これで持続可能な開発のための目標（SDGs）についての質問を終わります。

次に，防災対策についての質問に対する答弁を求めます。

理事兼防災安全課長。

〔理事兼防災安全課長 野村静喜君登壇〕

○理事兼防災安全課長（野村静喜君） 皆さん，改めましてこんにちは。それでは，私から田山議員の2項目め，防災についての1点目，全国的に甚大な被害をもたらした台風19号，当町においても全国初となる広域避難やバスを使用しての避難など注目を浴びました。今

回のことで見えた課題や問題点、当町としての今後の取り組みについてとのご質問にお答えをいたします。

町では、平成27年度の関東東北豪雨災害を経験し、その教訓から国土交通省の利根川上流河川事務所による水害シミュレーションの結果を受け、利根川が氾濫した場合は、町の9割が浸水し、避難をしなければ約2,000人の犠牲者が出るとの結果を踏まえ、町として広域避難に対する取り組みを進めてまいりました。

ソフト面におきましては、まず水害対策の先進地である新潟県三条市、見附市に防災研修を行うとともに、国土交通省への河川防災ステーションの建設要望、坂東総合高校、総和工業高校との覚書の締結による広域避難先の確保、防災研究の第一人者である東京大学大学院片田敏孝特任教授に町の防災アドバイザーとして就任をいただき、広域避難プロジェクト事業を展開し、逃げどきマップを作成するほか、3回にわたる防災講演会を開催いたしました。また、インターネットを基盤とし、スマホ等を活用した防災アプリ「S a k a i n f o」の導入、さらに王子コンテナー茨城工場、ガス協会、茨城県バス協会貸切委員会県西支部、日本ムービングハウス協会との災害協定の締結、関東東北豪雨災害で被害の集中した境地区総合防災訓練の実施など、防災基盤を整備してまいりました。

ハード面におきましては、緊急避難所として、水害用としては日本で初となる水害避難タワー及びP F I 方式定住促進住宅の建設に伴う屋上への一時避難場所の設置、各小学校に災害用トイレ兼用の防災倉庫の建設、非常用電源として使用できる水素自動車、最近では災害支援カー及びトレーラーの導入、都市排水路のバイパス管設置工事など、ハード、ソフト両面にわたり取り組んでまいりました。

今回の台風19号では、全国でも初となる広域避難を実施することができたのは、10月26日に実施を予定しておりました茨城県古河市、五霞町との総合防災訓練で、町としても初めての広域避難訓練に向け準備を進めてきた結果だと考えております。そのような中、台風19号が発災し、国土交通省利根川河川事務所長からのホットラインを受け、利根川氾濫の危険性が高まったことから、広域避難を実施することとなりました。広域避難の実行に当たっては、国土交通省利根川河川事務所との連携はもとより、災害対策本部長である橋本町長のちゅうちょない決断により、町外の広域避難所として覚書を締結している坂東総合高等学校及び総和工業高等学校に避難所を開設し、大規模災害時における広域避難輸送等に関する協定を締結している茨城県バス協会貸切委員会県西支部や境町社会福祉協議会のバス11台を運行して、各行政区の公民館等を経由しながら、住民の皆様に避難をしていただきました。あわせて町のホームページから、町内の道路の冠水情報やリアルタイムでの利根川水位情報、防災アプリの配信など情報提供するとともに、町長から直接住民の皆様に命を守る行動をとるよう、防災無線による呼びかけを行ってまいりました。自治体を越えての広域避難は全国でも初めての試みであることから、テレビや新聞等のマスコミにも取り上げられ、国土交通省利根川河川事務所においても境町の取り組みが参考になるとのことで内閣にも報告され、自由民主党国土交通部会や参議院災害対策特別委員会でも取り上げられ、さらに10月

10日には、本日5時来庁予定になっております中央防災会議のワーキンググループの方々
がヒアリングに来庁するなど、各方面から注目されているところであります。

一方で、情報の共有や一部の道路での渋滞、駐車場の明かりの問題、避難勧告、避難指示
を出したものの、どのようにして避難をしていただくかなど、避難方法の課題も見えてきま
しましたが、問題ばかりを追求するのではなく、まずはこれから検証するため、今回の広域避難
の実態を把握する必要があると考えておりますので、年内に全戸配布を、全戸を対象とした
住民アンケートを実施し、その後年度内に結果を集計し、来年度の台風シーズン前までには、
広域避難計画の見直しに反映していきたいと考えておりますので、ご理解、ご協力のほどよ
ろしくお願い申し上げます。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

田山文雄君。

○10番（田山文雄君） 先ほど答弁にありましたとおり、全国的に本当に境町の取り組みと
いうのがすごく注目されていまして、実はうちの公明、後があれになってしまいますけれど
も、公明新聞のターミナルという記事の中でも、最近境町で購入しましたトリプルハイブリ
ッドカーですか、これを自治体として全国初で導入したという記事を載りまして、電話で僕
いただきまして、何か電話取材だったみたいなので、あれなのですが、ただ全国版にもやっ
ぱり境町がこういう取り組みしていますというのを我が党の新聞でも載ったという話を聞
きました。町長がいろんな今取り組みをされていますから、どんどん、どんどん本当に先進
的だなという感じはいたすのですが、先ほどもありましたとおり、今回深夜にみんなが大規
模に避難したという中では、やっぱりいろんな課題は確かにあるのです。先ほど別にそれを
非難するという、そういう意味ではなくて、今後のそれに対応した形をやっぱり町としても
考えなくてはいけないというのがありますので、それは多分アンケートをとった中には、こ
れから全戸にアンケートをとるという話ですので、その中にはやっぱりちょっと耳が痛い
ような内容も多分あると思います。ただ、それはそれで真摯に受けとめていただいて、100%
は無理ですが、ぜひ対応をお願いしたいと思っています。今回の一般質問の中で、実はこの
問題というか、今回のこの問題についてはあと何人かの方がやられますので、僕は1点だけ
ちょっと聞きたいのが、ペットを飼われている方、そのペットを飼われている方がなかなか
やっぱり避難所に行けない、これはいろいろあります。避難所にいる人からすれば、ペット
の命と人間とどっちが大事なのだという声もちろんありますし、とても一緒にいけない
という人ももちろんいるというのも知っています。ただ、その一方でやっぱり特に高齢の方
は、ペットと今同居をされて、ペットが家族だという雰囲気になっている方もいますし、そ
ういう方にとっては置いていけないで結局避難できなかったという人もいます。また、行っ
たけれども、どうしても仕方がないので、やっぱり連れて帰ってまた戻ってきたとか、そう
いう声も実はあるのです。だから、ぜひこの検討の中に、ペットを飼われている方は今度ど
ういうふうに避難していくのかとか、ペットだけを預かる場所をつくるかでも結構だと思
うのですが、そういったことも検討の一つの要素として、ぜひ町にも考えていただきたい

というふうに思いますので、どうかよろしく願いいたします。

○議長（倉持 功君） 質問に対する答弁を求めます。

理事兼防災安全課長。

○理事兼防災安全課長（野村静喜君） 田山議員さんの再質問にお答えをさせていただきます。

ペットの問題ですが、これまでも多くの避難所で取り上げられている問題だというふうに思っております。今回、アンケートを実施する中で、ペット関連についても住民の方にお伺いをして、その集計のもとに参考にしていきたいと思いますので、よろしく願いしたいと思います。

〔何事か言う者あり〕

○理事兼防災安全課長（野村静喜君） アンケート内容に入れてありますので、よろしく願いしたいと思います。

○議長（倉持 功君） 答弁に対し、質問はございますか。

田山文雄君。

大丈夫、オーケー。

○10番（田山文雄君） そしたら、今までアンケートが何か細かいアンケートみたいで、僕らはちょっとその内容がわかっていなかったものですから、本当にそれを十分に真摯に受けとめていただいて、やはり全国から今注目されているということも、ぜひありますので、よろしく願いしたいと思います。

以上です。

○議長（倉持 功君） これで防災対策についての質問を終わります。

次に、英語教育についての質問に対する答弁を求めます。

教育次長。

〔教育次長 小関幸枝君登壇〕

○教育次長（小関幸枝君） それでは、田山議員の3項目め、英語教育についての1点目、先進的な英語教育が全小中学校で取り入れられ、来年度からはさらに充実した体制になると聞いているが、当町の取り組みについてとのご質問にお答えいたします。

境町では、平成29年9月に3名の英語講師をフィリピンから招聘し、境町立境小学校をモデル校として、全国でも先進的な英語教育を導入いたしました。また、平成30年4月からは、17名のフィリピン人講師を招聘し、町内全小中学校で完全実施しております。今年度の新たな取り組みといたしましては、昨年度県西地区で初となる実用英語技能検定、いわゆる英語検定の受検料全額補助を小中学校の希望者に対して実施したところ、114名の小学生が英語検定を受検し、中学生についても前年の2倍近い生徒に受検をしていただきました。今年度、さらに多くの子供たちに英語検定を受検していただくため、中学3年生と小学6年生につきましては、町の事業として全員が英語検定を受検いたします。

中学3年生につきましては、ことし10月の英語検定を受検し、約3割の生徒が合格し、それ

ぞれの級を取得しております。小学6年生全員と中学2年生以下の希望者につきましては、来年1月の英語検定を受検する予定となっております。今後も継続して英語検定に取り組んでいくことで、当町の英語教育の成果が徐々に形となってあらわれてくるものと考えております。

また、他市町村からの視察の受け入れ状況でございますが、今年度、静岡県駿東郡町議会議長会や埼玉県川越都市圏まちづくり協議会など、28の関係自治体等に視察にお越しいただいております。さらに、10月には英語教育を目玉とした移住定住チラシを野田市、春日部市などの周辺10自治体に合わせて約30万部、新聞折り込みにより配布したところ、水戸市や野田市在住の方から境町に移住したい、英語の授業を見学させてほしいなどの英語移住に関する問い合わせを2件いただいたことから、授業の様子を収めたDVDを送付して対応させていただきました。DVDを見た野田市の方からは、娘がDVDを見て、境町の授業をどうしても受けたいと言っている、今年度中に境町に移住したいと思っていて、現在境町内でアパートを探しているとの連絡があり、反響の大きさを実感しております。今後も英語移住に関する多数の問い合わせが予想されることから、学校等と調整をして、公開授業の実施やYouTubeへの動画の公開等も対応してまいりたいと考えております。なお、ことし8月に小学校5、6年生の希望者を対象にオールイングリッシュで実施されたイングリッシュサマーキャンプにつきましては、既にYouTubeに動画を公開させていただいております。また、議会にもご説明させていただきましたとおり、来年度からは新たに10名のフィリピン人英語講師を当町に迎える予定でございます。中学校につきましては、受験への対応や国で定める規定の授業との兼ね合いから、町が独自に取り組む、話せる英語をどう進めていくかが課題でございます。そのため、現在、町の英語教育にご尽力いただいている元財務副大臣グローバルビジネス戦略総合研究所（GBS総研）の遠藤乙彦先生に加えまして、中学校におきましては、プロポーザル方式による提案型の公募により業者を新たに選定させていただき、中学校にフィリピン人英語講師8名を配置して、中学校の英語力を強化してまいります。また、公私連携型保育所であるおおぞら保育園とひまわり保育園に1名ずつフィリピン人英語講師を常駐させ、境町の子供たちが幼少期から英語になれる環境の整備を進めてまいりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

田山文雄君。

○10番（田山文雄君） 質問といたしますが、今お話聞きますと、境町の住んでいるこのお子さんがすごく多分周りから見たら本当にうらやましいと思うと思います。実はこの前のDVDといたしますか、あれを初めて見た人が言ったのは、これは特別な子だけがそこに出ていて、何か言葉悪いですけども、やらせではないけれども、そういうビデオなのですかって言った人がいたのです。いや、これはそうではなくて、本当に境の全小学校のお子さんがああいう感じでできるのですよと話したら、みんな驚いていました。だから、本当にそのぐらい初めて見た人はすごく驚きますし、今後もやっぱり新たに移住したいと思うような施策

として、ぜひ取り組んでいただきたいと思います。

ただ、1点だけちょっと思うのは、小学校、中学校で本当にこの英語がレベルアップして、次の高校です。中学校から高校に行ったときに、今度高校に行ったらまた会話ができなくなるような、よくそういう話も聞くときあるのですが、この中高に対しての連携といいますか、その辺も重要であると思いますので、多分恐らくその辺も考えていらっしゃると思うのですが、ぜひ中学校との連携をまた強化をしていただいて、何とか取り組んでいただきたいと思います。ちょっと時間がないので、次の項目をお願いします。

○議長（倉持 功君） これで英語教育についての質問を終わります。

次に、骨髄バンクドナー登録推進についての質問に対する答弁を求めます。

福祉部長。

〔福祉部長 椎名 保君登壇〕

○福祉部長（椎名 保君） 改めまして、おはようございます。それでは、田山議員の4項目め、骨髄バンクドナー登録推進についての1点目、2019年9月末現在のドナー登録者は全国で約52万人と、ドナー登録自体が少ない現状であるが、ドナー登録者をふやすための啓発普及や支援など、当町の取り組みについてとのご質問にお答えいたします。

骨髄バンクを必要としている患者さんは、白血病や悪性リンパ腫、再生不良性貧血など、抗がん剤治療や放射線治療などでも治癒できない方で、幅広い年代の患者さんが骨髄バンクを介した移植を待っていらっしゃいます。移植の条件の一つである白血球の型が合う方は、他人間で数百から数万分の1の確率ということでございますので、田山議員ご指摘のとおり、ドナー登録者が少ない現状でございます。平成31年3月末日現在の茨城県の骨髄バンクドナー登録者数は8,536名、患者登録者数は28名、類型移植例数は329例でございます。茨城県保健福祉部薬務課によりますと、境町のドナー登録者は84名とのことですが、患者数や移植例数につきましては、個人保護の観点から公表していないとのことでございます。

田山議員のご質問のドナー登録者をふやすための啓発普及についてでございますが、平成30年7月3日に境町中央公民館を会場として、愛の献血が行われた際に、茨城県と日本骨髄バンク主催による

献血併行型骨髄ドナー登録会が行われました。このときに境町としてもドナー登録者をふやすため、チラシやドナー登録のしおりの配布等を実施して、啓発活動に努めました。当日は、4名の方に登録をしていただきましたが、骨髄バンクのドナーには誰でもなれるわけではなく、18歳から54歳までの健康な方で、体重については男性45キログラム以上、女性40キログラム以上の方、また病気療養中や服薬中でない方など一定の条件がある中での登録は、とても貴重な登録でございました。また、登録は各献血会場や献血ルームなどで受け付けているとのことでございます。新たな啓発といたしまして、来年1月12日に予定されております第65回境町成人式会場にて、20歳の骨髄ドナー登録キャンペーンを実施いたします。これは、茨城県保健福祉部からの通知を受け、一人でも多くの骨髄ドナーを確保するため、20歳の若者を中心に骨髄ドナー登録への呼びかけを行うものでございます。

次に、支援など当町の取り組みについてでございますが、境町では令和2年4月1日から、骨髄バンクドナー助成補助制度事業を導入し、登録者へ支援をするべく準備を進めているところでございます。この制度は、平成28年4月より始まった県の事業で、支援の内容といたしましては、骨髄提供を行うための休暇制度を設けていない企業などに勤務していて、町内に住民登録している方が骨髄提供をした場合、通院や入院期間中の収入の減について、その分を補填するという制度で、ドナーとなる方の負担軽減を図ることができるというものでございます。県内では、44市町村中31市町村が導入しており、近隣では古河市が平成29年度から導入しており、3件の実績となっております。また、平成30年度の実績は1件とのことでございます。なお、未導入の市町村は、境町を含む13市町村でございますが、各市町とも導入に向け検討しているとのことでございます。今後も献血会場などでドナー登録の意義や必要性について丁寧に説明して、一人でも多くの方に登録していただけるよう取り組んでまいりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

○議長（倉持 功君） ちょうど時間ですけれども、よろしいですか。

〔「はい」と言う者あり〕

○議長（倉持 功君） これで田山文雄君の一般質問を終わります。